

助成受給団体名	ふりがな きやぶみやぎ CAPみやぎ
事業の名称	DV予防啓発ワークショップと癒しのコンサート 「覚書」第2条で定めた期間を書いてください。
実施期間	平成 26 年 7 月 1 日～同 27 年 3 月 31 日
実施した事業の内容(200字以上500字以内に収めてください。)	
<p>① CAPワークショップ 教職員向け1回(6名)／地域の大人向け(仮設)1回(60名)／子ども向け3回(児童館、小学校、幼稚園(2日間)各1回 計69名) ワークショップ実施のためのスタッフミーティングと練習会をその都度実施。</p> <p>② ワorkshop&amp;コンサート 仮設入居者 地域の方 地元出身のアーティスト・ダーズンノーツ。 会場は、尚綱学院大学の礼拝堂を無償提供を受けた。 コンサート開始前に、DV啓発のワークショップを実施し、DVの実態や、取り組みの活動内容、簡単に効果的な護身法などを紹介した。 コンサート開催のための打合わせを3回実施。当日のパフレット作製は尚綱学院大学</p> <p>③ 啓発グッズ作製・配布 見守りベルを500個作製。ワークショップ時、コンサートの時に参加者へ配布。 デザイン等の打ち合わせを密に実施し、デザイン外注ではなかったが、良いものが完成した。残は、今後のワークショップ時に配布していく予定</p> <p>④ ワorkshop&amp;コンサート開催に関するチラシをそれぞれに作製配布。</p>	
事業の成果(200字以上400字以内に収めてください。)	
<p>CAPワークショップでは、仮設の方たちを対象に、『地域の防災』と『心の防災』と題して、暴力予防の啓発と防災を組合わせたワークショップを実施した。自団体のみではなく、他団体とのコラボワークショップは、実施先から求められる多様なニーズに対して、さまざまな形で提供できる道筋ができたといえる。 また、大学との協働事業としての取り組みは、双方にとって大変有益であり、継続されることを望む声が多かった。 啓発グッズの見守りベルは、防犯のための道具として作製したが、災害時に自分の所在を知らせる道具にもなり、安心の道具となった。防犯ベル以外の使い方のアイデアをいろいろ考えてくれた方もいる。</p>	
今後の課題	
<p>事業の継続と、やはり集客と予算が課題になる。予算は、参加者に若干の入場料の負担なども考えていかなければならない。また、沿岸部でも内陸部でも関係なく、子ども達の心が揺れていることが気がかりである。上手に表現できず、荒れた行動として起きていることが少なくないと感じた。子ども達に、まず、人権意識と自尊心を高めるCAPを届けられるように、予算の確保を目指す。</p>	

